

砧小学校は、明治40年（1907年）に現在の場所に校舎ができた古い学校。当時の喜多見（現在の「成城」も含む）、大蔵（現在の「砧」も含む）、岡本、宇奈根、鎌田という広い範囲が学区でした。当時のお話を、砧在住のKさんとTさんに伺いました。

おふたりは同学年で現在87歳。洋服、ズック靴でお弁当を持って30分以上歩いて砧小学校に通いました。水道道路は舗装されてなく、砂利道の通学路でした。周囲は畑ばかり。雨や雪の日は、靴がぬれるし、寒かったり、雷が鳴ったら隠れるところが何もないので、ものすごく怖かったそうです。

彼女たちの学年は、男組・女組・男女いっしょの組の3クラスで（おそらく50名くらいの児童で1クラス）Kさんは女組、Tさんは男女いっしょの組。組み分けは学校に行ったら決まっていた、自分たちの希望ではありませんでした。

学校が終わって帰ると、母親から子守りを頼まれ（Kさんは6人弟妹の長女、Tさんは8人兄弟姉妹の上から2番目）いつも妹か弟を背中におんぶしていました。Kさんは自宅で遊ぶことが多く、Tさんは女の子がよく遊びに行く「山野（さんや）公会堂」（砧4丁目20）に弟妹をおんぶして行きました。「山野公会堂」は、お祭りの道具などをしまふ場所、お座敷が広く、地域の人が集まる場所でした。庭も広く、桜の大きな木、三笠宮のご来臨記念の松があり、かくれんぼやゴム跳びをしました。お座敷では、お手玉・おはじき・おままごと（女の子の三大遊び）で遊びました。妹や弟にお客様役をふり、自分はお母さん役で、ごはんやお料理を作ります。散った花をおかずにして、笹船の上に載せてごちそうに見立てたりしました。弟はいつも姉妹の中で遊んでいたのでも「女言葉」を覚えてしまいました、とKさんは笑っていました。お手玉は、母がくれた端切れで自分で作って、巾着袋に入れて大事に持っていました。3つ玉とか4つ玉、5つ玉とか、器用にあやつたものでした。お手玉の中身は小豆なのですが、小豆は貴重品だったので、草っぱらでとれる数珠玉（草の実）とかお茶の実を干して入れました。ガラスでできたおはじきは持っていなかったのでも、みんなでのおはじきになる平べったい、丸い石を探し、洗って、お日様で乾かして遊びました。みんな手づくりですね。

夏の思い出は、多摩川での水泳です。砧小学校からは、宇奈根の多摩川に行って泳ぎました。男の子はふんどし、女の子はシュミーズとパンツでした。泳ぎ終わると暖かい石の上に座って乾くのを待ったものでした。夏休みは家族で多摩川まで歩いて行ったり、和泉多摩川まで電車で行ったりしました。川の水が澄んでいて、泳ぐというより水遊びでしたが、本当に楽しかったです。帰りはずっと登り坂を歩いたか、電車で帰ったか覚えていませんが、記憶の中には楽しさだけが残っています。戦争になってからはそんな楽しい家族遊びもなくなりました。



原稿を書いてくださった大海篤子さん（砧むらおばちゃん会議代表）→